

# 生徒が国会議員になって、20年後の日本について考える！

1月19日(木)、社会科の照屋あすか先生が授業を公開しました(3年5組)。本時は、生徒が日本の社会保障の在り方について、対立と合意、効率と公正の視点から多面的・多角的に考えることが目的です。

生徒はまるで国会議員になったかのごとく、20年後の社会保障の充実を目指して、**党の政策を選択し、その根拠を一生懸命主張する姿が見られました(図1)**。ある党の主張では、「**寝ている国会議員もいるから給料を大幅にカットする!**」と、身を切る覚悟がひしひしと伝わりました。

あすか先生イイね!と感じたのが、授業は終始、生徒が主役で、あすか先生がファシリテート役(議長)だった所です。また、単なる討論会(話し合い活動)で終わらずに、授業終盤は**生徒を個に戻し、今一度、優先すべき政策とその理由を記述する場面**を設ける等、**生徒の思考の変容をみとり、改善しようとする態度**の育成に努めていました。

## 【本時のパフォーマンス課題】(核となる授業)

あなたは国会議員です。(中略)現在の日本の財政では、歳入の48%を公債でまかなっている(借金が多い)という問題があり、さらに少子高齢化により、ますます社会保障費は増大し、税収が減る中で、これからの社会保障をいかに充実させるか、国民の負担をどうするかなどの課題があります。(中略)国会議員としてあなたが考える「20年後を見据えた社会保障のあり方」についての政策を改めてレポートにまとめ提案しよう!



図1 国会議員の給料を大幅カットして無駄を見直す!

**Yさんの振り返り【結論】** 政策Cから政策Bに変更!

**【理由】** てんさい党の「抜本的な改革をしないと20年後の日本は変えきれない」という主張に共感したから。

パフォーマンス課題ですので、生徒にループリック(評価基準)を示し、教師と生徒が学習評価を共有することで、生徒の思考力や、学びに向かう姿(自己調整・改善)をみとる等の、「パフォーマンス評価」につながったかもしれません。

Aの生徒(例)	Bの生徒(例)	Cの生徒(例)
対立と合意、効率と公正の視点から政策を説明している	自分なりに必要な政策を判断し、その理由を説明している	優先すべき政策を選択したが、その理由が不十分である【手立て】



図2 スマイル党さんへ!中身が整っていないのに消費税を25%も上げたら国民は納得するのか!?

## 生徒の深い学びを評価する「パフォーマンス課題」とは?

パフォーマンス課題とは、リアルな文脈の中で、様々な知識やスキルを応用・総合しつつ、何らかの実践を行うことを求める課題です。具体的には、レポートや新聞といった完成作品や、プレゼンテーションなどの実技・実演を評価する課題です。

作り方の例としては、①単元目標を達成させるための、核となる授業を設定(パフォーマンス課題)、②その課題を解決するための単元計画(逆向き設計)となります。

本県が提唱している「テスト改善」と似ているかもしれません。実技教科の先生方にとっては、当たり前の単元計画かもしれませんが、5教科の先生方も、ぜひ、パフォーマンス課題(テスト改善)や核となる授業づくりに取り組んでみませんか…(\*^\_^\*)

